

オンライン講演会

「看取りケア」普及への課題 ～キーワードは延命拒否、老衰死、 ホスピス住宅、自己決定～

浅川澄一(福祉ジャーナリスト)

10月17日(土)午後2時～3時半

定員 500人(会員・非会員を問わず無料)

形式: オンライン (ZOOM)

主催 日本尊厳死協会北海道支部

申し込み: 北海道支部ホームページ(前日まで)

<https://songenshi-kyokai.or.jp/hokkaido/>

講演要旨

昨今、新業態として「ホスピス住宅」が注目されている。集合住宅に訪問看護ステーションを併設した形態だ。中には、過剰な訪問を繰り返して高収益を挙げ、問題視される上場会社も複数現れた。看取り制度の不備を突いたビジネスとも言われた。欧米に追い付きつつある医療介護の中で、ホスピスは大きく出遅れた。長年「死はタブー」とされてきた。だが、後期高齢者の多くは自身の「死に方」にきちんと身構えだした。ゴールを見据えている。老衰死の急増でよく分かる。介護保険で身についた「自己決定」に遅れをとっているのは専門職や行政の側のような。ホスピスを軸に看取りのあり方を考えたい。